

ながしまかつまさ

「越中瀬戸焼研究者—長島勝正—」展

富山県を代表する古美術研究家 長島勝正氏は、第二次世界大戦中の昭和15年（1940）、東京帝室博物館による越中瀬戸焼窯跡発掘調査をきっかけとして、以後、越中瀬戸焼の研究に取り組まれました。

そのかたわら、陶芸にも取り組み、越中瀬戸焼 庄楽窯^{がま}などでも作陶され、晩年まで続けられました。

このたび、庄楽窯に長らく保管されていた、長島氏の初期研究の成果を記した原稿が、釋永由紀夫氏から立山町教育委員会に寄贈されたことを記念し、ここに原稿を公開いたします。

本展示は、長島氏の越中瀬戸焼に関する研究成果や著書を紹介し、氏の足跡を明らかにするものです。

謝辞 本展にあたり次の方々からご教示・ご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

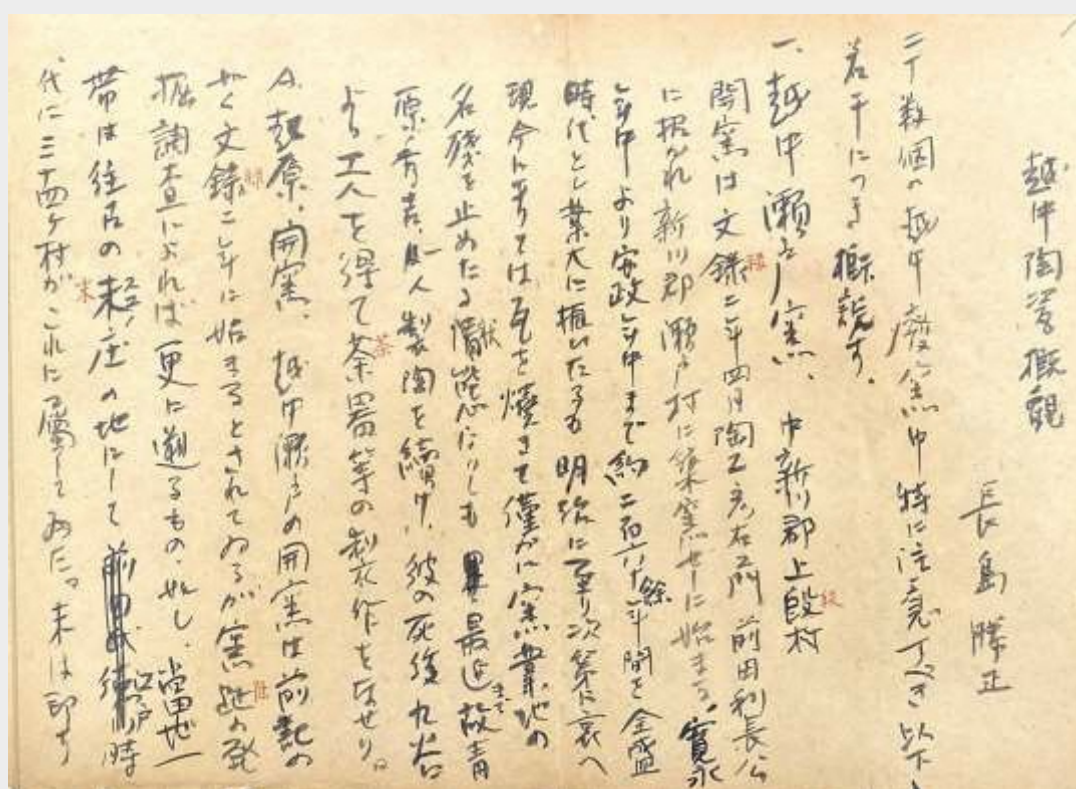
釋永 由紀夫 松倉 千尋 藤井 一二

藤井 喜代美 野入 潤 間野 達

越中瀬戸焼歴史研究会 富山石文化研究所 立山町文化財保護審議委員会（敬称略）



油絵制作中の長島勝正氏



庄楽窯 釋永由紀夫氏宅に保管されていた原稿「越中陶器概観」の冒頭部分

1 長島勝正氏の生涯と業績

長島勝正氏は、富山県を代表する文化・歴史・古美術分野の知識人・評論家の一人である。

明治37年(1904)入善町に生まれ、大正12年(1923)東京美術学校(現東京藝術大学)彫刻選科塑像部入学、昭和3年同校彫刻科塑像部卒業後、研究科に進んだ。

昭和4年帝国美術院主催「第10回帝国美術院展覧会」(帝展)に入選。

昭和11年(1936)下新川郡農協組合長を勤めた。

昭和11年4月～6月の富山市主催日満産業大博覧会では、彫刻「小スキーヤー」が金賞を受賞。

翁久允主宰『高志人』には昭和13年から19年にかけて計4回投稿。

昭和15年東京帝室博物館による越中瀬戸窯発掘調査に堀井三友と参加。

昭和18年富山県文化財専門委員。

昭和23年富山県展の創立に尽力。

昭和25年富山県郷土史会理事、昭和32年富山県文化財調査委員。

昭和38年から昭和59年まで富山県文化財保護審議委員となり、美術文化財の保護振興に勤めた。

昭和35年立山文化遺跡調査に参加。昭和43年富山県史編纂専門委員となり、県内地方史編さんにも多く携った。

昭和49年越中瀬戸焼愛陶研究会主催の「越中瀬戸焼 昔と今展」(富山県民会館美術館)に、釈迦像を出品。

平成2年(1990)86歳で死去。翌年遺稿集となる『とやまの古美術』刊行。

隠れた業績としては、昭和41年、寛喜二年(1230)銘銅造帝釈天立像(国重文、富山県立山博物館蔵)が国外流出するのを県知事吉田実が買い戻して食い止めたのには、昭和33年『富山県の歴史と文化』以来の長島と吉田知事のつながりの成果と言われる。

芸術家としての長島は、陶芸にも造詣が深く、越中瀬戸焼窯元庄楽窯(釋永庄次郎氏)に滞在し、作陶を続けていたという。

■長島勝正氏の代表的な著作

- 1937 「越中国分寺趾発見古瓦」『考古学雑誌』第27巻第4号
- 1942 「大岩の不動様」『高志人』第7巻第11号
- 1944 「入善地名考」『高志』第1巻第3号
- 1956 「越中の古神像」『越中史壇』第8号
- 1970 「石黒宗磨」『郷土に輝く人びと』富山県
- 1971 「富山藩の美術工芸」『富山史壇』第50・51号
- 1972 「オワラ踊」『富山教育』第617号
- 1975 『越中の彫刻』富山文庫8 巧玄出版
- 1983 『富山の美術と文化』文献出版
- 1991 『とやまの古美術』文献出版

ほか多数



北日本新聞
昭和46年9月連載
「越中陶工伝 瀬戸
長八」掲載挿絵
(上末山下窯小皿)

2 長島勝正氏と越中瀬戸焼

長島氏が越中瀬戸焼とかかわりを持つきっかけは、東京美術学校後在京時に、帝室美術館附属美術研究所嘱託 堀井三友(富山市出身)と知り合ったことによる。

堀井と長島氏は、昭和15年(1940)東京帝室博物館(現東京国立博物館)鑑査官 鷹巣豊治らが行った越中瀬戸焼窯発掘調査に参加した。この調査は堀井が段取りし、堀井の旧制富山中学校の後輩である日本海電気(株)社長 山田昌作の資金援助をえて実現した。

長島氏は、堀井と行動を共にし、これをきっかけに越中瀬戸焼への関心を深めることになった。

鷹巣は、発掘調査報告を雑誌『茶わん』に3回にわたり掲載したが、未完となった。富山において堀井がまとめることを期待されていたが死去したため、長島が発掘品を整理し、それをふまえて県内の陶磁器を総括して、昭和17年頃原稿「越中陶磁概観」を執筆した。この原稿の存在が明らかになったのは約40年後であった。

原稿では、越中瀬戸焼の歴史を三期に区分し、器種・形状・釉薬の特徴を細かく述べている。

巻末には、越中瀬戸焼などを発掘・研究対象としない考古学者に対する厳しい批判を述べている。

原稿は28枚が残るが、もとは更に数枚があった。県内三窯について研究を進める課題が書かれていたようである。

昭和35年(1960)越中瀬戸焼保存顕彰会主催「越中瀬戸焼」展(富山市立郷土博物館)が開催され、長島氏は図録『越中瀬戸焼』を執筆した。新知見も踏まえ、越中瀬戸焼の歴史が整理された。

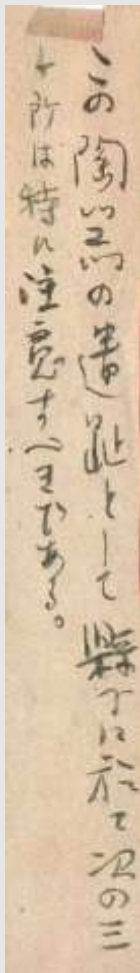
氏の研究は、文化財全般の多岐にわたったものの、越中瀬戸焼の研究はその後もしばしば継続した。芸術家としても越中瀬戸焼窯元庄楽窯(釋永庄次郎氏)や黒部市阿古屋野窯で作陶を行い、陶器・陶像・魚などの制作を通じ、越中瀬戸焼への理解を深めていった。

氏の研究成果と思いは現在、考古学における越中瀬戸焼研究に大きく寄与している。

■長島勝正氏の越中瀬戸焼に関する著作

- 1942 頃『越中陶磁概観』(1991「越中陶磁史の研究」『とやまの古美術』収録)
- 1960『越中瀬戸焼』越中瀬戸焼保存顕彰会
- 1974「越中瀬戸焼の芸術性」『藝文とやま』第2号 富山県芸術文化協会
- 1975「美術に生涯をかけた堀井三友と金山康喜」『郷土に輝く人びと』6
- 1976「越中瀬戸焼香炉」『富山県大百科事典』富山新聞社
- 1979「越中瀬戸焼 ひしゃくがけ鉢」『富山教育』第685号 富山県教育会
- 1983『富山の美術と文化』文献出版
- 1991『とやまの古美術』文献出版

長島勝正氏作品紹介



原稿

えっちゅうとうじがいかん
「越中陶瓷概観」
の末尾（活字化され
なかった部分）



騎駝人物 昭和22年 高 50.5 cm



かれい（彩色）
長さ 17 cm



フグ香合 長 8 cm



油絵「梅と椿」
高 114.5 cm



半跏像 昭和40年 高 38.5 cm



唐美人俑
高 32.5 cm



唐美人俑
高 32.5 cm



油絵「牛埴輪・壺・ぶどう」

6号

令和5年度 ミニ企画展2

「越中瀬戸焼研究者—長島勝正—」展

展示解説

会期 令和5年12月9日～令和6年4月21日

富山県立山町歴史交流ステーション 日なた

〒930-3213 富山県立山町日中上野 83

TEL 076-462-2387

E-mail : tateyama-hinata@ma.net3-

